

マドンナジャパン金女子野球盛り上げたい

帰道

IBAF第5回女子野球W杯(カナダ)で史上初の3連覇を達成した「マドンナジャパン」の金由起子内野手(34)は、ホームネット・レディースが22日に帰道、スポーツ報知の取材に応じ、熱戦を振り返った。出場7試合で全試合安打と打点をマーク、打率4割4分4厘、12打点で「打点王」に輝きV3へ導いた。金はチームで



3連覇を達成した金はスリピースで喜んだ

ラウンド	月・日	相手	スコア	打点	安打	成績
予選①	8.1	オーストラリア	21-0	4	1	1勝1敗
予選②	8.2	オーストラリア	21-0	4	1	2勝0敗
予選③	8.3	オーストラリア	21-0	4	1	3勝0敗
予選④	8.4	オーストラリア	21-0	4	1	4勝0敗
予選⑤	8.5	オーストラリア	21-0	4	1	5勝0敗
予選⑥	8.6	オーストラリア	21-0	4	1	6勝0敗
予選⑦	8.7	オーストラリア	21-0	4	1	7勝0敗
決勝	8.19	オーストラリア	21-0	4	1	8勝0敗

【注】月日は現地時間。金は18打数8安打12打点で打点王を受賞

聞き手・西塚 祐司

次は全国V目指す

V3達成の瞬間はどういう気持ちでしたか？

「ホッとしました。勝って当然という雰囲気やライバルも打倒日本！という感じだったので、みんなかなり重圧を感じていました。予選は6勝1敗で1位通過でしたがアメリカに負けて(予選2戦目)チームに変化は？」

「2安打しか打てず負けてショツクが大きかった。だが、ミーティングでは危機感を共通して団結した。その後ベンチメンバーが日本ハムや沖縄風の応援歌を張り切って歌って盛り上げてくれた」

「自身も12打点を挙げて打点王と勝負強さでチームをけん引した。V3達成の瞬間は、自分が空回りした時もあった。自分の成績は意識せずにも考えないでフルスイングにいった結果がよかった」

「勝つたい思いで必死で気合が空回りした時もあった。自分の成績は意識せずにも考えないでフルスイングにいった結果がよかった」

「期間中はどのよう過ごしましたか？」

「現地の日本人の方に本当に助けられました。おにぎりなど日本料理の差し入れや理学療法士の方

「金 由起子(こん・ゆきこ) 1977年9月20日、天塩町生まれ。34歳。天塩小4年の時、天塩タイガースで野球を始める。天塩高年で野球部、233年ではパレオ部に所属した。W杯大会には第2回から出場し、第4回は主将を務めた。背番号は50。168センチ、右投げ右打。

もいてサポートを受け本当に感謝です。去年まで北海道に住んでる方もいて何か不思議な縁を感じました」

「大会期間中はロンドン五輪も開催されました。女子サッカーに負けたくないという気持ちがあった。近い将来、野球とソフトボールも男女で五輪種目になれば注目度も上がり変わってくる」

「現在、34歳ですが現役に対す



日本 ベネズエラ戦で左前2点適時打を放つ金

る気持ちはず？」

「38歳のタマラ・ホームズ(アメリカ)が打率7割近くで首位打者になった。筋肉ムキムキです。かっつた。アラフォーの彼女のプレーを見て長く現役を続けたいと思う気持ちにさらに刺激を受けました」

「25日からは全国大会が始まります。世界の経験をナインにどう伝えますか？」

「次はホーネットの一員として優勝を目指す。ナインには自分のチームで満足せずにもっと上を目指さ大切さを伝えていきたい」

「全日本女子硬式野球選手権大会 05年に始まり今年で8回目。今年25・29日に愛媛・松山市の坊っちゃんスタジアムとマドンナスタジアムで行われる。全国の高校、大学、クラブチームから32チームが出場。本道のホーネット・レディースは8年連続8回目の出場。最高成績は07年の3位。」